

BBCワールドサービスの 新しい展開

—アラビア語テレビ放送と国際的な慈善活動

慶應義塾大学法学部非常勤講師

原 麻里子

英国人は、BBC（英国放送協会）を最も有名な文化的輸出品である——と考えている^{注1}。「英国には世界に誇れるものが三つある。英語、オックスブリッジ（オックスフォード大学とケンブリッジ大学）、BBCワールドサービス」という言葉もよく耳にする。

BBCワールドサービス（以下、WS）の目的は、基本的には全世界にニュースを提供し、情報の貧困を埋め合わせ、情報のライフラインになることである。しかし、メディア環境が急変する中、WSはこれまでのラジオ国際放送から、国際的なマルチメディアネットワークに変わろうとしている。今年3月からはアラビア語テレビ放送を開始した。さらに、ワールドサービストラストを立ち上げ、国際的な開発慈善活動も展開している。WSの新しい展開を見てみよう。

75周年を迎えたBBCの国際放送

1932年12月、BBCは英国本土と海外の自治領、植民地を結ぶBBCエンパイアサービス（帝国放送）を開始した。この帝国放送が多言語によるラジオ国際放送になった。

38年1月、英国は独伊枢軸国のラジオ放送によるプロパガンダに対抗するため、中東向けのアラビア語放送を開始した。当初、英外

務省は中東向けニュースは、英国に有利な項目だけを放送しようと考えていた。しかし、BBCのリース初代会長は、「国内向けと同様、アラビア語放送でも政府の支配から独立していなければならない。真実に溢れ、包容力のある放送のみが権威を持つ」と直ちに猛反対した^{注2}。

ラジオ国際放送は、当初は国内放送と同様に、受信許可料で運営されていたが、アラビア語放送開始を機に、英外務省からの政府交付金で全額賄われるようになった。終戦時には全世界に向け45言語で放送していた。特にナチス占領下の欧州では、BBCの放送はレジスタンス運動を積極的に支援しており、レジスタンス最大のシンボルがBBCの声であった。

戦後、エンパイアサービスはエクスターナルサービス（海外放送）、ワールドサービスと名称を変えるが、報道の正確さ、独立性、不偏不党、番組の質の高さで信頼され、世界の国際放送の中で最高の評価を受けている。

昨年12月、WSは創立75周年を迎えた。それを記念して、WSが一貫して理念としてきた「言論・報道・情報の自由」をテーマに、ロンドンでの講演会や世界各地で討論会を行って、その模様を放送し、その理念の重要性を世界に訴えた。

WSは英政府の資金で運営されていても、その編集方針は独立していると聴取者は信じている。しかし、昨年1月に発行された王室特許状^(注3)の基礎となる政府のBBC政策を示す「放送白書」では、WSは政府の外交方針に沿うことが求められている。BBCは編集権の独立を維持することを自らの理念とするが、WSの財源を英政府に依存することにより、国際放送発信の重点地域の選択は政府の外交政策に規制され、財源と編集権の独立で矛盾を抱えている^(注4)。

WSは08年4月現在、英語を含む33言語でサービスを行っている。短波のみならず、受信国でのFM波による再送信、衛星放送、インターネットを通じて提供され、06年度の週間聴取者数は1億8300万人、前年より20%増加した^(注5)。

2002年末以降、BBCはグローバル・ニュース・デイヴィジョンの下に、WSとBBCワールドの英語によるテレビ国際放送(商業資金)が組織され、国際ニュースの発信源を一元化した。BBCは海外72支局250人の特派員のほか、ニュースを集める地域の専門家もいる。現在、WSの番組制作スタッフの30%以上が世界各地に点在している。モニタリングは、150カ国100以上の言語による3000種類以上の新聞や雑誌、テ

レビやラジオなどをモニター・分析し、各方面に情報を提供している。

マルチメディアネットワークに

WSの新戦略の基本は、ラジオ国際放送から国際的なマルチメディアネットワークに変わることである。WSのコンテンツを英語と他の言語で、ポッドキャスト、ウェブコンテンツ、携帯電話など、受け手が望む形式で取得可能にすることを目標とする。

BBCのオンラインニュースは質の高さで有名である。海外からの閲覧数は、07年3月は7億400万ページで、前年同期に比べ50%増^(注6)。BBCのオンラインニュースを海外からアクセスする場合、英語版はサイトに掲載される広告収入で、英語以外の32言語は英外務省の資金で運用される。ただし、このサイトは国によってはブロックされることもある。さらに、ユーチューブやオンラインスペースを用いて、ビデオニュースを6カ国語で放送中だ。

一方、WS(ラジオ)はオンラインと連携した双方向の討論番組(フォーラム)で世界的な市民の参加を取り込んでいる。多言語のグローバルなフォーラムをオンラインに設定しており、フォーラムは英語のみのときより

も豊かな「地球的話」になる。地理、言語、文化で分割されているコミュニティーを乗り越え、聴取者たちは自分自身の見解と物語を公表し、共有する機会を得る。「私たち」がそれらを「共有している」という「仮想的近接」が創出されるが、それには国際的なコンピューター・ネットワークへのアクセスが必要で、メンバーはトランスナショナルな知識人階層に制限される傾向にある^(注7)。

アラビア語テレビ放送を開始
WSのもう一つの戦略が、アラビア語とペルシア語のテレビ放送の開始である。今年3月、WSはアラビア語テレビ放送をロンドンとカイロに本拠地を置いて開始した。1日12時間放送で年内には24時間にする予定だ。北アフリカと中東では、衛星やケーブルテレビ(無料)で視聴できる。英政府資金による初のテレビ国際放送で、その資金捻出のため06年3月までに10言語の放送を終了した。年間予算は2500万ポンド(約50億円)^(注8)。

中東メディアの調査によれば、BBCのアラビア語ラジオ放送は、英国がイラク戦争に関与しているにもかかわらず、人気が高い。01年以降、アラビア語ラジオ放送は、ニュース、分析、特集番組や英語教育番組などを、24時間放送している。最初に外国語でウェブサイトを開いた(98年)のもアラビア語で、

「BBC Arabic.com」は、24時間ニュースと分析を掲載し、人気を呼んでいる。

中東は100以上のアラビア語テレビ放送がすでに存在する激的な市場であり、衛星放送視聴者調査では、この地域の80〜90%の人がBBCアラビア語テレビ放送を見ると予測している。WSの首脳であるナイジェル・チャプマンは「アラブ世界のためのアラブを取材」とし、「BBCアラビア語テレビ放送は不偏不党で、正確なニュースと分析に強く、高度に専門的な知識のある情報で名高い。強化されたマルチメディアサービスはニュースと討論に強い欲求を持っている視聴者の要求に合致する」と話す。

ロンドンで発行されているアラビア語新聞『al-Quds』の編集者は、BBCのアラビア語テレビ放送が、この地域における民主主義と本物の政治的革新へ向けての先導役になると期待している、という。

イスラム世界ではタブーだった話題をあえて取り上げることで、イスラムに関する政府の公式見解の解体が始まっている^(注9)。

一方、今年2月、アラブ連盟はアラブの指導者や国家・宗教のシンボルを傷つけた場合には衛星放送を処罰することに同意。アルジャジーラの本拠地があるカタールだけが、この署名を拒否した。チャプマンは、アラビア

語テレビ放送は「迎合したり恐れたりしない放送をする」と語る。

BBCワールドサービストラスト

WSは99年、英国文化振興会とパートナーシップを組んで「BBCワールドサービストラスト」(以下、トラスト)という国際的な非営利団体を設立した。トラストの目的は、外部から資金を受け入れ、開発途上国でBBCの持つ資産、価値観、世界的評価、経験を投入し、メディアの力を用いて生活の質と人権を向上させることだ。

トラストは、メディア教育や識字教育のほか、放送を通して人々の健康、社会、経済、政治的問題への認識を高め、議論を起し、彼らの指導者に問題を考えさせたり、そうした議論をBBCから世界に発信させている。目的は、ファンダメンタリズム(原理主義)、軍事化、ネオリベラリズムなどによる、さまざまな形の差別や人権侵害、社会的経済的正義と戦うため、これらが国境を越えて協力し合うというトランスナショナルなコスモポリタン民主主義、新しい社会運動にもつながっていく^(注10)。

『アフガニスタンの女たちの時間』

アフガンニスタンの大人の非識字率は76・

5%、全体は85%。多くの人々が困窮状態にあり、テレビを購入できないので、ラジオが政府の政策やさまざまな社会的経済的問題を伝える最も効果的なメディアだ^(注11)。全土を対象にした初の調査では、FM波による再送信も含めて980万人、60%の人がBBCを週に1回は聴いている^(注12)。

同国の女性開発指数(GDI)は177カ国中、下から2番目。政治・経済分野での男女平等を示すジェンダー・エンパワメント指数(GEM)はデータ不足で計算できないが、女性の政治・経済分野への参画と意思決定権は低い^(注13)。

トラストは英外務省の資金で、ラジオ番組『アフガニスタンの女たちの時間』を、ダリー語、パシュトゥーン語で週に1回放送し、同国の最弱者である女性たちに情報と支援と助言を与え、女性たちが能動的な役割を果たすよう奨励している。現地を採用・訓練された女性記者が、女性の行動の自由が拘束される社会的慣習の中で、田舎や町で、さまざまな女性や少女たち(ときには男性たち)に取り材している。同国のインターネット利用者は2%(昨年8月)とアクセスが限られており、女性記者たちが制作した番組・素材をロンドンへ送信するのも一苦労だ。

この地域の女性の大多数は、貧しく、電話

などもなく、しかも発言の場は歴史的力関係の不均衡によって構築されているので、自身を表現する機会がない。『アフガニスタンの女性たちの時間』は、排除された声なき声を吸い上げている。女性聴取者たちは、ラジオで他の女性たちの実生活の証言を聞くのが好きなのだ。この「声なき多数派をエンパワーし、勇気を与えるジャーナリズム」(チャプマン) 番組の意義は大きい。

昨年、番組制作者のレイチェル・エリソンは、アフガニスタンにおける人権と女性のエンパワーメントの促進に貢献したとして大英勲章(MBE)を叙勲され、同番組のスタッフはWS賞「今年のチーム賞」を受賞した。

グローバルなシステムの担い手へ

WSは、マルチメディアネットワークを用いた多言語による地球的話話によって、聴取者を連携させ、トランスナショナルな情報空間を創造している。世界には「他者化」され、「周縁化」された社会集団や、メディア技術の発達によってアイデンティティが国内外で結びつき「中心」に異議を唱える動き、多様な主張を持つ識者や市井の人が討論することで人々の関心を喚起し、対抗的な言説、情報空間を創造していく動きがあるが、BBC

がその主要な担い手になろうとしている。

トランスナショナルな言説の圏域を創出してきたものには、環境、人権、女性運動もあるが、最強の要素は啓蒙主義的世界観、自由福祉、権利、主権、代表、民主主義という概念だ。BBCは、不偏不党、公正、正義という「倫理的威信」をそれらに加え、想像によるトランスナショナルな圏域の構築にかかわっている^{注14}。

一方、トラストのプロジェクトのある部分は、マスメディアの効果を偏重した楽観的な理論に基づいた開発コミュニケーション論の実践とも言えない。BBCワシントン新支局のオープニングでアナン国連事務総長(当時)は99年、「BBCワールドサービスは、おそらく、今世紀(20世紀)における英国の世界的に最高の贈り物」と語った^{注15}。人類学的に言えば、与え手は贈り物を与えることでプレステージを高める一方、受け手は贈り物を受けることで道徳的義理を感じ、返礼をしなければならないと思う。

BBCは国際的な情報のライブラインであるのみならず、国際的な開発慈善事業にも進出し、グローバルなシステムの主要な担い手になり始めている。BBCはこうした活動を通じて、英国の国際社会への影響を強化している。

注1) 2005年5月、英国政府の国際貿易推進機関の発表。
注2) 大蔵雄之助「ウィッチャーランドンBBC」サイマル出版会、1983年、58頁。

注3) 国王が法人団体や会社と与える特権や創設条件を定めた文書。

注4) 中村美子「BBCの国際戦略」小野善邦編「グローバル・コミュニケーション論」世界思想社、2007年、235～236頁。

注5) 『BBC World Service Annual Review 2006/2007』

注6) ibid.

注7) アルジュン・アパデュライ、門田健一訳「まよえる近代」平凡社、2004年、346頁。

注8) 原麻里子「BBCワールド・サービス」『ソフィア』214号第54巻第2号、2006年、215～219頁。

注9) 阿部り「他者としてのイスラーム」小野善邦編前掲書、159頁。

注10) Lisa McLaughlin, "Transnational Feminism and the Revolutionary Association for the Women of Afghanistan", in: Daya Kishan Thussu (ed.) Media on the Move, Oxon/NY: Routledge, 2007, p. 221

注11) Center for Policy and Human Development Kabul University, "Afghanistan Human Development Report", Pakistan: Army Press, 2007

注12) 『BBC World Service Annual Review 2006/2007』

注13) 『Afghanistan Human Development Report』

注14) アパデュライ前掲書、55、62、74頁。

注15) <http://www.bbc.co.uk/pressoffice/kefacts/stories/ws2004.shtml>

(はら・まりこ) 慶応義塾大学文学部卒。
テレビ朝日アナウンサー、BBCワールドサービス日本語部プロデューサー(在ロンドン)、テレビ朝日報道局ディレクターを務めた後、同社を退社。ケンブリッジ大学院社会科学部へ留学し、論文修士号を取得。社会人類学専攻。